

一、檢索の便を計り各歌の初めに國歌大觀の歌番號を添へました。  
二、本卷は、澤瀉久孝之を擔當しました。

略號表

金	金澤本	元	元曆本	類	類聚古集
古葉	古葉略類聚鈔	神	神田本	西	西本願寺本
文	金澤文庫本	細	細井本	矢	大矢本
代	萬葉代匠記	考	萬葉考	玉	萬葉集玉の小琴
略	萬葉集略解	檢	萬葉集檢搦手	意改	編者の意を以て改めたもの

昭和十五年二月

編者 識

萬葉集目次 卷第一

- 雜歌
- 泊瀨朝倉宮御宇天皇代
    - 一天皇御製歌
  - 高市岡本宮御宇天皇代
    - 二 天皇登香具山望國之時御製歌
    - 三 天皇遊獵內野之時中皇命使問人連老歌歌并短歌
    - 五 幸讚岐國安益郡之時軍王見山作歌并短歌
  - 明日香川原宮御宇天皇代
    - 七 額田王歌未詳
  - 後岡本宮御宇天皇代
    - 八 額田王歌
    - 九 幸紀伊溫泉之時額田王作歌
    - 一〇 中皇命往于紀伊溫泉之時御歌三首
    - 一三 中大兄三山御歌一首并短歌二首
  - 近江大津宮御宇天皇代
    - 一六 天皇詔內大臣藤原朝臣鏡嶺春山萬花之艶秋山千葉之彩時額田王以歌判之歌
    - 一七 額田王下近江國時作歌并戶王和歌

校註 萬葉集

- 二 天皇遊瀧瀨生野時額田王作歌
- 三 皇太子答御歌
- 明日香清御原宮御宇天皇代
  - 三 十市皇女參赴於伊勢神宮時見波多橫山巖吹黃刀自作歌
  - 三 麻績王流於伊勢國伊良虞島之時人哀痛作歌
  - 三 麻績王聞之感傷和歌
  - 三 天皇御製歌
  - 三 或本歌
  - 三 天皇幸吉野宮時御製歌
  - 三 藤原宮御宇天皇代
    - 三 天皇御製歌
    - 三 過近江荒都時柿本朝臣人麿作歌一首并短歌
    - 三 高市連古人感傷近江舊塔作歌 或書高市黑人
    - 三 幸紀伊國時川島皇子御作歌
    - 三 阿閉皇女越勢能山時御作歌
    - 三 幸吉野宮之時柿本朝臣人麿作歌二首并短歌二首
    - 三 幸伊勢國之時留京柿本朝臣人麿作歌三首
    - 三 當麻真人麿妻作歌
    - 三 石上大臣從駕作歌

- 四 輕皇子宿于安騎野時柿本朝臣人麿作歌一首并短歌四首
- 五 藤原宮之役民作歌
- 六 從明日香宮遷居藤原宮之後志貴皇子御作歌
- 七 藤原宮御井歌一首并短歌
- 八 大寶元年辛丑秋九月太上天皇幸紀伊國時歌二首  
或本歌
- 九 二年壬寅太上天皇幸參河國時歌
- 十 長忌寸奧麿一首
- 十一 高市連黑人一首
- 十二 譽歌女王作歌
- 十三 長皇子御歌從駕作歌
- 十四 舍人娘子從駕作歌
- 十五 三野連名開入唐時春日藏首老作歌
- 十六 山上臣憶良在大唐時憶本鄉作歌
- 十七 慶雲三年丙午幸難波宮時歌二首
- 十八 志貴皇子御歌
- 十九 長皇子御歌
- 二十 太上天皇幸難波宮時歌四首
- 二十一 置始東人作歌

- 二十二 作主未詳歌
- 二十三 身人部王作歌
- 二十四 清江娘子進長皇子歌
- 二十五 太上天皇幸吉野宮時高市連黑人作歌
- 二十六 大行天皇幸難波宮時歌三首
- 二十七 忍坂部乙麿作歌
- 二十八 作主未詳歌
- 二十九 長皇子御歌
- 三十 大行天皇幸吉野宮時歌二首
- 三十一 或云天皇御製歌
- 三十二 長屋王歌
- 三十三 和銅元年戊申天皇御製歌
- 三十四 御名部皇女奉和御歌
- 三十五 三年庚戌春二月從藤原宮遷于寧樂宮時御與停長屋原廻望古鄉御作歌
- 三十六 一書歌
- 三十七 五年壬子夏四月遣長田王伊勢齊宮時山邊御井作歌三首
- 三十八 寧樂宮
- 三十九 長皇子與志貴皇子宴於佐紀宮歌
- 四十 長皇子御歌

校註 萬葉集 卷第一

本歌云、まのこ人麿の神皇の命、身極四首時歌十一首である。...

藤原宮之役民作歌、高市連黑人作春日歌、身極四首、藤原宮遷居時歌、大行天皇幸難波宮時歌、...

置始東人作歌、...

作主未詳歌、...

身人部王作歌、...

清江娘子進長皇子歌、...

太上天皇幸吉野宮時高市連黑人作歌、...

大行天皇幸難波宮時歌三首、...

忍坂部乙麿作歌、...

作主未詳歌、...

長皇子御歌、...

大行天皇幸吉野宮時歌二首、...

或云天皇御製歌、...

長屋王歌、...

和銅元年戊申天皇御製歌、...

御名部皇女奉和御歌、...

三年庚戌春二月從藤原宮遷于寧樂宮時御與停長屋原廻望古鄉御作歌、...

一書歌、...

五年壬子夏四月遣長田王伊勢齊宮時山邊御井作歌三首、...

寧樂宮、...

長皇子與志貴皇子宴於佐紀宮歌、...

長皇子御歌、...

ニ 大和には 群山あれど とりよるふ 天

の香具山 登り立ち 國見をすれば 國

原は 煙立ち立つ 海原は かまめ立ち

立つ うまし國ぞ あきつ島 大和の國

は

天皇 宇智野に遊獵し給ひし時、中皇

命、間人連老をして獻らせ給へる歌

ニ やすみしし わが大王の 朝には とり

撫でたまひ 夕には い倚り立たしし

御執らしの 梓の弓の なか弭の 音すな

り 朝獵に 今立たすらし 夕獵に 今

立たすらし 御執らしの 梓の弓の な

か弭の 音すなり

反歌

ニ 山常庭 村山有等 取與呂布 天乃香具

山 騰立 國見乎爲者 國原波 煙立龍

海原波 加萬目立多都 恰何國會 蜻島

八間跡能國者

天皇遊獵内野之時中皇命使間人連老獻

歌

ニ 八隅知之 我大王乃 朝庭 取撫賜 夕

庭 伊緣立之 御執乃 梓弓之 奈加弭

乃 音爲奈利 朝獵爾 今立須良思 暮

獵爾 今他田渚良之 御執 梓能弓之

奈加弭乃 音爲奈里

反歌

○ 煙、花嚴經垂義私記、煙、烟字同、氣夫利、新撰字鏡、熯、介夫利、和名鈔、煙、介不利、  
○ 立龍(元)「立龍」宇智野、大和國宇智郡、  
○ 中皇命、舒明天皇の皇后、後の皇極天皇か、喜田博士、一天皇考、藝文第六年一號、中天皇についで(藝文第十年一號)參照、  
△ 港(元)「瀧」(三ツトモ)「瀧」  
○ なか弭、吉田智藏氏「奈加弭の考」(日本文學叢書)參照、

四 たまきはる宇智の大野に馬竝めて朝踏ま

すらむその草深野

讚岐國安益郡に幸せる時、軍王、山

を見て作れる歌

五 霞立つ 長き春日の 暮れにける わづ

きも知らず むらぎもの 心を痛み 鴛

子鳥 うら歎居れば 玉櫛 懸けのよろ

しく 遠つ神 わが大王の 行幸の 山

越す風の 獨居る 吾が衣手に 朝夕に

還らひぬれば 丈夫と 思へる吾も 草

枕 旅にしあれば 思ひ遣る たづきを

知らに 網の浦の 海處女らが 焼く鹽

の 思ひぞ焼くる 吾が下こころ

反歌

四 玉刻春 内乃大野爾 馬數而 朝布麻須

等六 其草深野

幸讚岐國安益郡之時軍王見山作歌

五 霞立 長春日乃 晚家流 和豆肝之良受

村肝乃 心乎痛見 奴要子鳥 卜歎居者

珠手次 懸乃宜久 遠神 吾大王乃 行

幸能 山越風乃 獨座 吾衣手爾 朝夕

爾 還比奴禮婆 大夫登 念有我母 草

枕 客爾之有者 思遣 鶴寸乎白土 網

能浦之 海處女等之 燒鹽乃 念會所燒

吾下情

反歌

○ うら歎居れば  
「萬葉古經第二」  
一〇九頁參照、

△ 網能浦(元)「網能浦」